

1. 学内からの視点

項目	評価基準	点検・評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○プログラム科目の履修状況の分析が実施できている。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当該プログラムの2024年度授業科目「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」は全学1年次生の必修科目であり、その履修者数は256名（教育学部104名、都市経営学部152名）であった。 ●授業各回の出席状況は出席管理システムによって把握している。また、授業ごとに課題を提示し、その制作物をアップロードさせることによって、各受講生の授業到達目標達成度を把握している。 ●2024年度の単位修得状況は、「データサイエンス基礎Ⅰ」が97%、「データサイエンス基礎Ⅱ」が96%であった。単位未修得の1年次生15名は、2025年度以降に再履修し、単位修得を目指すことになる。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラム科目の履修状況の分析が適切に実施されている。</p>	A
学修成果	○学生がプログラム科目の到達目標を一定以上達成し、学修成果を実感している。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラム「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」の成績評価によると、80%以上の学修成果を収めた受講生が約9割を占めている。 ●本学では卒業研究等の一部科目を除く全授業科目を対象に授業評価アンケートを実施しているほか、数理・データサイエンス・AI教育検討会議において、本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」を対象に、2024年度、授業内容の理解度の把握や、次年度以降の改善を目的として、授業アンケートを独自に実施した。これらのアンケート結果を通して、受講生の学修成果の実感度や、授業内容・授業方法等の問題点を把握することができ、授業担当教員と共に、より学修成果が上がるような授業内容や授業方法の検討を行っている。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、大部分の受講生は本プログラムが求める知識・技能等を修得できたと考えられる。プログラム科目の到達目標の達成度を把握した上で成績評価が実施され、その結果大部分の受講生が高い水準の評価を得ている。また受講生の学修成果の実感度についても把握され、授業内容等の改善につなげられている。</p>	A
学生アンケート等を通じた学生の理解度	○学生がプログラム科目の内容を理解している。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」では独自の授業アンケートを実施しており、数理・データサイエンス・AI教育検討会議においてアンケート結果から授業内容の理解度等を分析している。2024年度は両科目のべ267名の回答があり、両学部合わせて93%の学生が数理・データサイエンス・AIに関して理解できたと肯定的に捉えており、87%の学生が興味・関心をもったと回答している。総合的には、本授業の内容に満足したと95%の学生が回答した。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、アンケートを通じて把握した受講生の理解度は良好であった。</p>	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生がプログラムを他の学生に推奨できる。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」は必修科目であり、教育学部および都市経営学部の両学部生とも1年次に必ず履修することとなっている。そのため、後輩学生への推奨度によらず、全新生はこれらの授業科目を必ず履修することになる。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、上記授業アンケートの結果によると、本授業内容への満足度が95%であったことから、後輩学生への推奨度は高いと考えられる。</p>	A
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○全学生の履修が達成されているか。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」は2023年度の入学者から全学必修としているため、2026年度末に全学生の履修を達成できる見込みである。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、必修科目として全学生の履修が達成される見込みである。</p>	A

2. 学外からの視点

項目	評価基準	点検・評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業生や就職先等から意見聴取し、活躍状況等を把握する。	<p>【点検結果】</p> <p>2023年度「データサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱ」の教育成果に基づいて2024年度に認定されたことから、本プログラムの修了者が社会人となる時期は2027年4月以降となる。そのため、2027年度以降、「教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等」の評価が必要となることを確認した。キャリアデザインセンターが卒業生と就職先に対して3年ごとに実施している「福山市立大学における学生の学習成果に関するアンケート調査」を参考に、2025年度以降、検討と準備を行っていくこととした。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、卒業生や就職先等への調査内容や調査方法については、今後の課題として残されている。</p>	—
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○産業界からのニーズ等を把握する。	<p>【点検結果】</p> <p>●2023年度に実施された「数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能に関する企業アンケート」について、最終的な分析結果を確認した。対象は情報関連企業に限定せず、福山市近郊の幅広い業種の企業を含んでいる。「情報倫理」や「情報セキュリティ」を重視する企業群と「AI」「ビッグデータ」「論理的思考」を重視する企業群が存在することを確認した。次年度以降の企業アンケートの対象企業や、実施頻度、設問内容等については、継続して検討していくこととした。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、産業界からの当該プログラムに対する評価や要望の把握については、今後の課題として残されている。</p>	—
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○プログラム科目の履修を通じて「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を学生に伝える。	<p>【点検結果】</p> <p>●本プログラム「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」の第1回授業において、当該科目の授業内容が今後の学生生活や卒業後の実社会においてどのように活用できるのか、また、実社会においてどのように活用されているのかに関して、具体的な事例等を示しながら説明しており、本プログラムの授業を積極的に受講することの重要性や、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や技能を修得する意義の周知を図っている。また、学生アンケート等に基づいて、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を適切に伝えられるよう、授業内容や授業方法についての改善を図っている。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラム科目の履修を通じて学生に「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を伝える取り組みがなされている。</p>	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○プログラム科目の改善につながる取り組みがなされている。	<p>【点検結果】</p> <p>●文部科学省が2024年2月にモデルカリキュラムを改訂し、「生成AI」のキーワードの追加、技術の実体験、高等学校授業科目「情報Ⅰ」との教育内容の関係整理などが主な変更点として示された。これを受け、両学部の授業担当教員においては、2025年度のシラバス記載内容の見直しや授業内容の変更など、必要な対応が図られていることを確認した。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラムを改善・進化させるための体制を通じた授業改善が図られている。</p>	B

各項目の評価は、福山市立大学自己点検評価委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

A 優れた点があり、十分に行われている。

B おおむね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。